

令和2年度第3回 市民活動・ボランティアサポートセンター運営会議 会議録

日 時 令和3年2月10日(水) 10:00~11:50

場 所 姫路市市民会館 5階 第11会議室

出席者 構成員6名 事務局5名

(構成員)

藤本 真里 座長 米谷 啓和 副座長 安積 英孝 氏 川石 雅代 氏
福永 強 氏 橋 正人 氏

(事務局) 市民参画部 平石部長、市民活動推進課 藤保課長、
市民活動・ボランティアサポートセンター 佃所長 岸本主任 得平主任

次 第

1 開会

2 議事

(1) 市民活動ネットひめじの利用促進について
報告事項

(1) 令和2年度ひめじおんまつりについて

3 その他

4 閉会

会議の進行記録（要点記載）

座長： 本会議の場で皆さんの日頃の活動等のノウハウをお聞きしたいということで、今回「市民活動ネットひめじの利用促進」が議事として提案された。さっそく議事に入りたい。

事務局： 資料1
議題1 市民活動ネットひめじの利用促進について
資料及びホームページ（以下「HP」という。）画面により説明

座長： では、ご意見ご質問等をお願いしたい。

構成員： 利用状況の見方だが、アクセス数はかなり減少して、ページビュー数は増えている。それは、中身が充実しているということだろうか。

座長： 1度アクセスした人がいろいろなページを見ているということかと思う。

構成員： ということは、構成が良かったということではないか。見る側に分かってもらおうと思って作ってるなと感心している。

構成員： 説明にもあったが、検索画面に改善の余地がある。検索しにくいのでユーザビリティが悪い。

座長： HP上で、ひめじおんまつりをもっと取り上げてはどうか。このまつりは、登録団体の方々がそれぞれの活動を市民に知ってほしいと思って始めたことで、センターにとっては大切なイベントだと思う。このページにアクセスすると、登録団体がこんなイベントをしているとわかるように、1つのコーナーを作っても良いのではないか。このイベントは、実行委員会が一生懸命頑張っておられるので、その様子を臨場感をもって報告すると、見る側も共感できると思う。

構成員： 今でも市民活動・ボランティアサポートセンターとあるくらいだから、このHPのタイトルはひめじおんを冠にしたほうが良いと思う。検索することを考えても、統一したほうが良い。

座長： 検索エンジンでひめじおんで検索してみると、このHPが1番に出てくるが、このサイトにはひめじおんが出てこないから、つながりがない。ここは、修正を検討しては

どうか。また、市の公式 HP にも「ひめじおん」が出てこないの、掲載したほうが良いと思う。

事務局： トップページの左上のマークはセンター10周年の時に、元々あるロゴを活用して作成したものである。そこには「ひめじおん、since2009.5.30」とあり、市民活動・ボランティアサポートセンター＝ひめじおんという意味がある。このロゴはセンター発行の通信などにも掲載し、ほかでも積極的に活用している。しかし、初めて見る人にはわかりにくいので、市民活動ネットひめじのタイトルの下に、「本ページは市民活動・ボランティアサポートセンター（愛称ひめじおん）が運営するサイトです」と入れるように検討したい。また、市側のHPにひめじおんという文言がないので、表示されるようにして、市のHPからのアクセス、逆にこちらのHPから市のHPにアクセスできるように考えていきたい。

座長： 市のHPの方は申請すれば可能だと思うので、修正していただきたい。また、ロゴマークの文字と背景が同化して見にくいので修正を検討してはどうか。それから「市民活動ネットひめじ」を「市民活動ネットひめじおん」にはできないか。

構成員： 検索でヒットするように、テキスト部分にひめじおんと入れたほうが良い。

事務局： ロゴマークの修正、テキストで検索しやすくするという点は検討する。市民活動・ボランティアサポートセンター、ひめじおんが運営するHPは「市民活動ネットひめじ」ということは開設以来やってきているので、HPの名前自体を変えることはないが、つながりがわかるようには工夫したい。

座長： 活用されている団体側からすると、このHPはどうか。

構成員： PRしたいという団体は、自分のHPやSNSをするのは難しいが、公のセンターが運営するサイトなら大丈夫だろうと安心して登録されているところもたくさんあると思う。そういう団体を守ってほしいと思う。今、私の団体は市民の方からマッチングの希望があったときに、センターを通して連絡をもらっているが、HPという媒体だと連絡先が直接出てしまう。HPを運営するセンターには公としての責任や制約もあると思う。私としては、団体のPRより、ひめじおんまつりの宣伝をしてもらう方がよい。

座長： そのご意見の意図が、HPを見た人が直接電話してくるのは団体として困るので、まずセンターを通して連絡するべきということであれば、センターの問題意識と逆に

なる。センターとしてはHPの存在を知らずにセンターに連絡してくる方が多いので、HPを見て直接団体に連絡するようになってほしいという思いがある。案件によっては、検索しても見つけられずにセンターに連絡することもあるかもしれないが、今はセンターに問合せがあったときに、こういう団体があってHPにも連絡先があるという案内をしているのが現状ということだ。

事務局： HP に連絡先を載せたくないという理由で登録されていない団体もあり、そういう団体については、一覧表で団体名を HP に掲載している。それを見て連絡いただいてマッチングという流れもあるが、基本的に、HP に掲載しているところは連絡先を知らせてもいいという団体である。

構成員： この HP をもっと PR して、たくさんの団体が申し込んで掲載してもらいたいということか。私としては、ひめじおんまつりの時はもっと PR してほしい。

座 長： 例えば、今開催中のひめじおんまつりで HP の PR はしているのか？

事務局： チラシは置いている。

座 長： リニューアルしたとチラシなどで PR してはどうか。確かに団体検索はしにくかったが、たくさんの団体が自身の活動の記事を掲載されていて、HP としては充実していると感じた。QR コードを作って、それで PR する方法もある。

構成員： スマホで見ると、団体検索や団体からのお知らせが上に来ているが、センターからのお知らせが一番に来た方がいい。

事務局： HP リニューアル時、センターよりも団体さんの PR をしていただく場にしたいという意図があり、センターの記事は最後で良いということで、敢えてこの構成にしている。

構成員： 通常は、運営主体のお知らせが先だ、どう考えても。

座 長： 別の活動で HP をしているが、若い人は HP より Twitter の利用が多いと聞く。しかし、現在の若年層のトレンドは Twitter でもないと聞くこともある。

構成員： HP の利用増はサーチエンジンで検索のヒットをどう高めるかというところがポイントかと思う。ただ、10代から30代くらいの世代については Instagram が主流で、

フェイスブック（以下「FB」という。）どころか Twitter の利用も少ないらしい。市の施設でも Instagram に力を入れているところは情報を得やすいので、私自身も文学館や植物園などの情報は Instagram から得ている。

座長： 他の施設のように施設そのものの PR ではなくて、センターでは登録団体の PR が目的になる。センターが Instagram という土壌を作って情報を流せるようにすると、団体からの需要はあるのか。

構成員： 需要はあると思う。

座長： Instagram が活用しやすいなら、団体自身がアカウントを持ちそうなので、わざわざセンターの Instagram を使う必要もなくなるのではないか。例えば美術館なら、展覧会など発信する情報がたくさんあるので活用しやすいが、センターのように登録団体を PR する場合は、どういう媒体が一番適しているのだろうか。

構成員： 今、センターは FB をすでにやっていて、その情報量も多いので、Instagram と充分連携できると思う。FB ではひめじおんまつりの情報も掲載している。FB を利用する年齢層が高くなっているのも、若年層向けに Instagram や Twitter から誘導するのも手である。FB を基本にして Instagram や Twitter と連携するのが一番効果的だと思う。

事務局： FB と Instagram は連携できるということだが、FB を更新することによって Instagram も更新されるということか。現在、センターでは FB を中心に情報発信しており、管理する媒体が多種多様になると難しいので、そのあたりはどうか。

構成員： そのとおり。

事務局： 市役所は情報管理が厳しく、情報政策室が定めるセキュリティポリシー等の運用基準を確認して問題なければ比較的容易にできそうである。若い世代にも情報が届くようにできたらよいと思う。

座長： 容易であれば、そういう手法も取り入れると良い。もう一つの課題、認知度が低いとか情報更新がやりにくいという点についてはどうか。

構成員： 良いページになっていると思うので、あとは、機能性というか連携を考えると良いのでは。

座 長： 市民会館の来館者には様々な活動をしている人がいるので、館の中にあるセンターの名札に QR コードを添付しておいたらどうか。見る人が増えると内容も良くなり、更新回数も増える。HP 自体は魅力的なので良いと思うが、使い方が難しいというよりは、団体側にその気が起こっていないのではないかと思う。

構成員： HP の中で登録団体の紹介があるが、団体名と活動の内容を2~3行書いているだけの団体が多い。ここに団体が持つ HP の URL が1行つけられるだけで使い勝手が違う。文章を書くのは負担だが、URL なら載せてもいいという団体も多いと思うので、その点は団体にもアナウンスしてはどうか。

事務局： 団体が記事をあげる場合にはリンクは貼れるが、団体紹介の項目にリンクを貼れるかどうかはシステム業者に確認して、可能ならば改修したい。

構成員： その際、HP の URL に加えて、FB、Instagram も貼り付け可能か確認していただきたい。

座 長： それでは次に、ひめじおんまつりについて事務局より説明をお願いしたい。

事務局： 資料2
報告事項1 令和2年度ひめじおんまつりについて
資料及び PR 動画、スライドショーによる説明

構成員： 今回のひめじおんまつりについては、知り合いの団体から今年はどうかと聞かれることがあり、「展示だけだ。」と答える「とつまらない。」という声もあった。ただ、いろいろな団体が参加してくれたことは良かったし、マイナンバー申請の来庁者が多いのに驚いた。

構成員： タイミング的にちょうど良かったのでは。

構成員： それを目当てにしていたところもあった。今回は開催も実行委員長も何もかも「特別編」だ。実行委員会で議論を重ねて、この状況になった。参加団体から会場に行かなくてよいのかと聞かれたが、今回はぜひ展示を見てほしいとお願いした。ひめじおんまつりの認知度が少しでも上がるといいなと思う。

構成員： 私は、実行委員会で「今まで通りやるべきだ。」とずっと言い続け、今でも結果的にできていたと思っているので、今回の開催は残念だと思う。しかし実行委員長

については、高校生だったので日中動けないこともあり、今回のパターンだったからこそできたと思う。他のメンバーにも高校生の実行委員長に反対の人がいたが、その人と委員長の2人が FM ゲンキに出演したとき、その人が実行委員長をたてるような発言もされていたので、結果として良かったのかなという印象をもった。参加団体がコロナ禍で活動ができないというところがほとんどなので、コロナの状況にもよるが、できれば次回は盛大に開催したい。

構成員： パネルや動画はネットに掲載しているのか。掲載しないのはもったいなと思う。

事務局： 今は掲載していない。

構成員： 長く見られるので、アーカイブ的に残しておくといよいのではと思う。

事務局： 前の議事でも意見をいただいたので、システム業者と相談して市民活動ネットひめじでの掲載を検討したい。

事務局： 市民活動ネットひめじに写真などの画像をあげることはできるが、動画は YouTube にアップして、そのリンクを貼るようなかたちになる。

座長： ネットに掲載するならば、各団体に了承を得ないといけない。PR ポスターを画像で残しておいてはどうか。

構成員： 公の HP であることを活かすなら、最新の動画や画像などがすぐ見れるというのが魅力だと思う。その上で、「市民活動ネットひめじ」からリンクして各団体の HP へ飛ぶと、団体の詳細な情報にたどりついていく。そうすると幅が広がるのではないかと感じた。また、我々から上の世代は、文字で知ろうとする傾向にあるが、今は画像や動画を見て知るという時代に完全に変わってきているので、こちらがそれに対応していかなければならない。いつまでも古い HP に留まっているだけではダメなのではないか。予算のこともあるので、段階的に変更していきなり、年々少しずつカスタマイズして良い形になればよいと思う。

座長： 普段のまつりのブース展示だと深く話してみないとわからないが、今回の動画では活動の様子がよくわかる。貴重な動画になった。

構成員： 団体名と文字だけでは見えない部分が、写真や動画でかなり効果的に PR できる。

座 長： 職員も含めて、市役所での反応はどうだったか。

事務局： 多くの職員が休み時間に見に来ていた。直接声を拾っているわけではないが、概ね好評だと思われる。今回、マイナンバーの特設会場の壁自体を使っているが、マイナンバーは土日も受付しており、期間中かなりの人数が来庁されている。大きな立て看板を東玄関に立てたこともあり、駐車場から東玄関、そして市民ロビーへの流れができ、かなりの人が見ておられると感じた。1日100人見られているとして、土日を除いて8日間で800人ほどはあったと推察する。この展示を目的に来られた方は少ないかもしれないが、別の用事で来庁した方が動画やスライドショーなども足を止めて見られたのではないか。例年だと、ひめじおんまつりだけを目指して来られる方しかおられなかったが、今回はそれ以外の方へのPRができた。そういう意味では、コロナがあったからこそ逆にPRできたかなと思う。

構成員： 期間が長くとれたのは良かったと思う。

構成員： 好評につき、期間延長というのは無理だろうか。

事務局： このひめじおんまつりの前にも別の展示があり、PRコーナーという意味では人気の場所である。結果論になるが、もしこの時期に例年通り市民会館で1日開催する企画であれば、緊急事態宣言の期間に重なり、イベントそのものを中止せざるを得ない状況になっていたかもしれない。というのも、この期間は市主催のイベントは原則中止ということが示されており、実行委員会との共催とはいえ、このまつりも中止の対象であっただろう。結果的に今年度はこの形態で良かったのではないかと思う。

座 長： 参加団体の反応はどうか。

構成員： みんな喜んでおられるのではないか。いつもより参加団体が多く、61団体になった。動画の参加もあるか心配していたが、それなりの数があった。

構成員： こちらで撮影できると案内したが、その参加は1団体だけで、あとは自分たちで作成されたものを出された。

座 長： 結果的に、このような形態で開催してよかったということだ。

座 長： 議事はこれで終了となる。令和2年度の最後の運営会議になるが、開設当初から参加いただいた構成員1名と公募の構成員2名は今回で終わりになる。各構成員からセンターへのメッセージを是非お願いしたい。

構成員： 資料の中の前回会議の提案事項に良いことが書いてあるので、なんとか実現してもらいたいと思う。例えば市民活動や自治会活動の地域の核になる人を養成するとか、地域活動の成功事例を聞く、その事例として山田町での酒造りや福崎町のカップのような話を取り入れてはどうかなどだ。この運営会議で議論したことが実現するといいなと思う。センター開設時の運営会議の議事録を見ると、熱い議論をされていたので素晴らしいと思った。開設から10数年経って、人口減少など社会の動きが変わり、いろんな意味の節目を迎えている。今一度、センター開設時の原点に戻ってはどうかと思う。センターの事業は、まつりなど団体の発表の場ができたりして良いとは思いますが、場所貸しのようにになっている。今後は、そこから一歩踏み出すことが大切ではないか。私は郊外に住んでいるが、人口減少が進み、バスはなくなり、店は閉まり、放棄田は増え、地域の人には不安を抱えている。今後は、地域活動にウエイトを置くなどしてはどうか。市民活動・協働推進事業計画には、市民活動の参加促進と担い手づくりという項目に研修や出前講座などが挙げられている。そういうものを活用して、郊外の人が講師になってその成功事例を別の地域で講座する、そういうものになれば良い。頑張っている地域というのは、どうにかしなければという危機感があって試行錯誤しているのであって、立派な人が音頭を取って成功したというわけではない。材料はあるので、出前講座がその起爆剤になるのではないか。それから、この運営会議のメンバーに、異色な人が入ってもいいのではないかと思う。

座 長： 確かにメンバーを替えたり、様々な人に会議に参加してもらおうと議論が活性化すると思う。

構成員： 私は実行委員を兼ねているので、その立場からの意見が多かった。個人的にはひめじおんまつりを広域にできたらよいと思っている。さきほどの話のように郊外は過疎化の問題もあるので、そういう問題も含めてセンターが中心となって解決できるような機能になれば良いと思う。その手段としてひめじおんまつりがあっても良い。

座 長： ひめじおんまつりもまつりというだけではなく、次のステップを考えている人もいたので、一緒に頑張っていきたい。

構成員： 各校区の公民館で文化発表会をしている。ひめじおんまつりとタイミングを合わせたら、さほどの負担なく、全市中で一緒にやれるのではないかと思う。

構成員： それをしていない公民館もあり、またそれぞれの館の考え方もあるので難しいかもしれないが、方向性としてはひめじおんまつりが中心に周りを巻き込んで大々的にやれたら良いと思う。

構成員： 人も減少しているので、新しいことをするのは困難だが、逆に連携することでうまくいくのかもしれない。

座長： 公民館まつりとひめじおんまつりが連携すると、広報というメリットがある。公民館側は連携することを喜んでくれるのだろうか。

事務局： 今、市立の公民館は68館あり、発表会をする館もあれば、していないところもある。開催の仕方も単独であったり、複数館ブロックを組んで図書館のホールを借りて発表開催されているところもある。それぞれの地域の事情があり、開催が難しくなってきたという声もあると聞いている。また、毎年12月に姫路市立公民館のつどいというイベントを文化センターで開催されているが、今年度はコロナで中止になった。そういったイベントも含めて今後どうするかを館長会で議論しているところである。各館の発表会も時期はまちまちなので、タイミングが合い、お互いに連携したいという声があるのなら、情報連携など考えていきたい。そういう声があったと担当課にも伝えたい。

構成員： 山田町のような有志でしていることなら良いが、有料の講座の団体がひめじおんまつりに集まってくると運用上問題がある。

構成員： 公民館の活動も、広い意味で2つある。パネル参加や展示などコーナーを設けてもらうと良い。

構成員： 逆に、今回の動画やパネルを各地域の公民館で巡回展をするという方法もある。公民館もコロナの影響で、稼働率が下がっているはず。この時期なら借りやすいのではないか。

構成員： 行政は担当部署がそれぞれ違うことが多いが、こういう事業が縦割りではなく横につながるものになれば良い。

座 長： 行政の縦割りに準じて、市民活動も縦割りになっている。さきほど意見にあった、出前講座はすでにやっているが、市役所の各担当がメニューを作ってその内容で講座をするスタイルなので、ご意見のように、地域の方々が聞きたいと思う講座についてテーマをもらって、それに合う講師を紹介するような枠があれば、地域の課題解消のきっかけになるのではないかと。

構成員： 地域の成功事例を他の困っている地域で出前講座ができれば、1つの成功事例を点から面に広げられるのではないかと。その講師を探すのは難しいかもしれないが。

事務局： 縦割りと捉えられそうで恐縮だが、市長公室の地方創生推進室に「がんばる地域応援事業」という事業があり、そこで山田町のような事例を支援している。課題のある地域で成功事例を知りたいということであれば、地方創生推進室を通して地域の成功事例を紹介するという手段も検討の余地が有る。担当と情報共有しながら考えていきたい。

座 長： それでは、そろそろ時間になったので、これで今年度最後の会議を終了したい。次回の会議の日程について、事務局よりお願いしたい。

事務局： 次回開催については、後日日程調整